

天溪 2025 年「花のアルプスハイキング 10 日間」

2025 年「花のアルプスハイキング 10 日間」を 6 月 30 日～7 月 9 日に行いました

私達が欧州へ出発する少し前の 6 月 13 日、突然イラン/イスラエル戦争が勃発。同 21 日にはアメリカ軍がトマホーク等をイランの核施設に打ち込み、その報復としてイランが同 23 日カタールのドーハ米軍基地をミサイル攻撃。ところがその 5 時間後にトランプ大統領がイラン/イスラエルの停戦合意を発表。俗に言われる 12 年戦争ですが国際情勢の最先端を垣間見た様でした。ここで問題は私達の飛行機がドーハをハブ空港にするカタール航空だったので本当にヒヤヒヤでした。1 週間戦争が後にずれていたならこのツアーは全滅していたかも！

ところで、今年のアルプスは例年より早く夏が来て 6 月には気温が上昇し、私達の入山後も暑い日が続きました。野に生えるイネ科の植物は乾燥から茶色になり、高山植物も例年より 10 日以上早く咲いていました。

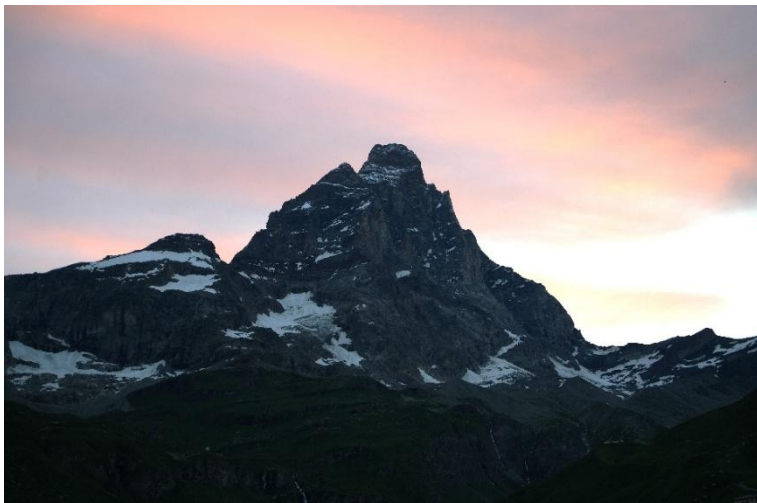


(マッターホルン北壁 7 月 7 月)

○チェルビニア

カタール航空が今夏から運行を始めた成田発 17 時半の便を使ってミラノ空港に朝到着。ミラノの象徴的な建築物で世界最大のゴシック建築のドゥオーモ(ミラノ大聖堂)に寄ってからチェルビニアに向かいました。(夏のスペシャルサービス)モンテ・チェルビーノは山腹の南斜面が熱せられ、その上昇気流で湧く雲により山頂が見え隠れ。少々不満がたりましたがアルペンローゼが美しく咲く斜面をハイキングしました。

一般的にマッターホルンはスイス・ドイツ語圏でマッターホルン、スイス・フランス語圏はモン・セルバン、そしてイタリアはモンテ・チェルビーノ。モンブランもイタリアはモンテ・ビアンコ、フランスはモンブランと呼ばれ、見る角度や国により呼名が変わります。このツアーは世界的に有名なこの二山を両側から眺めるように企画されています。



(朝焼けのモンテ・チェルビーノ 7 月 2 月)



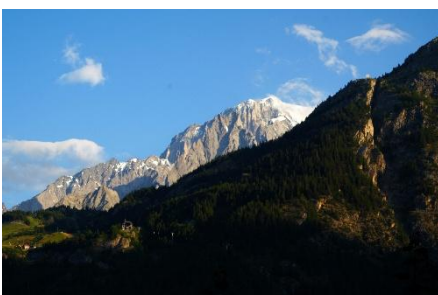
(アルペンローゼ)



○クールマイユール

クールマイユールはシェクルイのコル周辺をハイキング。コルに向かうロープウェーは何故か世間より約1時間遅い9:30の運転開始。早立ちの私達にとって1時間損する感じですが歩いて登る事を考えれば仕方なし。快晴のモンテ・ビアンコを眺めながらコル上部の最高地点 2303m まで往復ハイキングをしました。

余談:モンテ・チェルビーノからグランドジョラスに続く稜線を眺めながら歩くこのトレイルは、景色の美しさ、雄大さ、迫力、などから個人的にお勧めです。勿論、次回のツール・ド・モンブランでも利用します。





(モンテ・ピアンコ シェクルイの科尔 7 月 3 日)

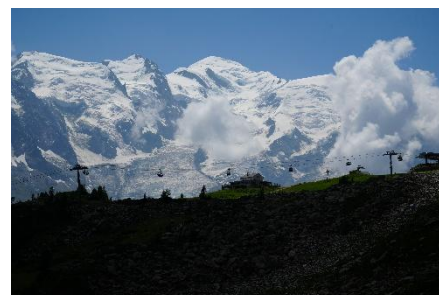
○シャモニー

モンブラン直下を貫くモンブラン・トンネルを使いフランスのシャモニーへ。フレジエールで下車してロープウェーでフレジエール展望台に登りハイキング開始。歩くにつれてシャモニー谷越しにモンブラ山群が迫り、一番左側にモンブランの山頂が佇むお手軽で素晴らしいトレイルです。ハイキング終着地のプランブラからロープウェーで一端下山し、今度は対岸のシャモニー針峰群の山腹を登る登山電車でモンタンバール展望台へ。ここはクライマー憧れの岩峰ドリューが眼前に迫る絶好のロケーションで、高さ 1000m の垂直壁は圧巻です。それに加えモンタンバール小屋も中々居心地の良い所です。

翌日も晴天でエギュードミディ展望台に登りましたが、この展望台はここ数年悪天候から私達にとっての登頂率は約 50%、今年大成功でした。



(シャモニー谷越のモンブラン 7 月 5 日)





○ツェルマット

嘗て天溪ツアーはスイスを中心にハイキングツアーを組みましたが、コロナ後はスイスフランが高騰しアンタッチャブルな世界に変わってしまいました。それでもマッターホルンは外せません。この度のマッターホルンは少しご機嫌斜めでしたがここぞと言う時にはその勇姿を見せてくれました。

マッターホルンのイタリア側/スイス側、モンブランのイタリア側/フランス側 どちらからみても素晴らしいですね！



(夕焼けのドリュエ 7月7日)



次回は7月7日から始まる「ツール・ド・モンブラン 11日間」をお伝えします。

天溪/赤沼